文化経済学会<日本> 2026年度研究大会 分科会プログラム

特別テーマ関連分科会　7月4日（土）10:30-13:00

特別テーマ関連分科会

座長　綿江 彰禅（一般社団法人 芸術と創造）

論題	伝統工芸産地における社会的事業承継に関する実証分析
発表者	奥山 雅之（明治大学）
討論者	高島 知佐子（静岡文化芸術大学）

論題	産業工芸における価値の再定位　―旭川家具にみる資源循環と協働の文化―
発表者	河渕 智子（北海道大学）
討論者	高島 知佐子（静岡文化芸術大学）

論題	「教養」から「投資」への文化価値転換の考察 ―経営者育成における茶道を通じたアンラーニングの実践を事例として―
発表者	成毛 しおり（京都大学大学院）
討論者	八木 匡（同志社大学）

論題	「アートとビジネス」研究をサーベイする
発表者	川北 眞紀子（南山大学）
共同発表者	後藤　和子（同志社大学）
討論者	八木 匡（同志社大学）

会員企画セッション A　10:30～12:15

テーマ	文化芸術におけるウェルビーイング評価の構築 ～公立劇場の経営や活動から目に見えないものをどのように測定するのか～
企画趣旨・内容	文化庁では、2002年に施行された「行政機関が行う政策の評価に関する法律」に基づき、2023年より文化芸術推進基本計画第2期の政策評価として指標の検討が行われています。指標設定の基本的な考え方として、以下の①から④までの留意点が示され、評価・検証サイクル（文化芸術政策のPDCA サイクル）を確立することとされました。 ① EBPMの理念に則り、政策効果の測定に重要な関連を持つ情報や統計等のデー タを活用して、取り組むべき施策を総合的かつ多角的に判断・評価すること。 ② 計画期間内（令和5～9年度の5年間）において実施する施策群を含む政策の評価・検証を行うため、第2期計画における重点取組を対象に、精選して設定した指標や収集したデータや情報等に基づき実態を把握し状況の変化に応じて機動的かつ柔軟に施策の改善、見直しを行うこと。 ③ 第2期計画の中間年度（令和7年度）の終了後に中間評価を実施し、全体最適な観点からより効果的な施策の推進に活かすとともに、第3期計画の策定に活用すること。 ④ また、指標の位置付けとして、評価・検証する際には、個々の指標のみではなく、関係団体・有識者等からの聞き取りなどによる定性的評価を含めて進捗状況全体を適切に把握することも重要であること。 本企画セッションは、政策評価における文化芸術にかかる定性的な評価について、劇場での実践的な取組や実践者の生の声を通じて劇場の現場から定性的評価の最適解とは何かを議論する場とします。とりわけ、文化芸術が地域社会や地域住民、参加者等にもたらすウェルビーイングについて、その概念に基づき、ウェルビーングをどのように評価するのか、その可能性について議論します。 現行の定量的評価（アウトカムKPI）では捕捉できない、文化芸術の「身体的実感」や「個人の変容」をいかにして政策的な指標へとアップデートするか、可児市文化創造センターあーとま塾での成果や調布市文化・コミュニティー振興財団での実践をベースに、定性的評価を確立していくプロセスとして、新たなロジックを展開するため理論構築のきっかけをつくることを目的とします。
登壇者	◆コメンテーター 衛紀生　（文化経済学会顧問/文化政策・劇場経営アナリスト/ 早稲田大学文化推進部参与） 朝倉由希　（文化経済学会理事長/福井県立大学教授） ◆事例発表 渡部 和哉　（（公財）調布市文化・コミュニティー振興財団 課長補佐兼 共生社会担当副主幹） 半田 将仁　（可児市文化創造センターalaあーとま塾プログラムディレクター） ◆司会進行 柴田英杞　（（公社)全国公立文化施設協会アドバイザー）

分科会①　7月5日（日）10:00-12:30

1-A　文化統計・計量分析

座長	牧 和生（京都橘大学）
論題	K-POPにおけるランダム商法と消費者の購買心理
発表者	安橋 正人（奈良女子大学）
討論者	牧 和生（京都橘大学）
論題	デジタル時代におけるテレビ放送産業の構造変化と持続可能性 ープラットフォームの価格戦略ー
発表者	西田 有希子（同志社大学大学院）
討論者	奥山 尚子（横浜国立大学）
論題	「演劇等鑑賞者」の鑑賞頻度別分析ー社会生活基本調査の匿名データを用いてー
発表者	坂部 裕美子（公益財団法人 統計情報研究開発センター）
討論者	米屋 尚子（独立行政法人 日本芸術文化振興会）

1-B　文化資本・教育

座長	小林 真理（東京大学）
論題	文化施設における教育普及活動の歴史的変容
発表者	谷口 彩（SAI Co-Cre Labo）
討論者	佐藤 良子（静岡文化芸術大学）
論題	美術系大学進学者の出身背景及び卒業後の状況について
発表者	井上 智晶（東京大学大学院）
討論者	佐藤 良子（静岡文化芸術大学）
論題	運営費交付金削減が国立大学図書館の生産効率性に与えた影響
発表者	谷口 みゆき（京都橘大学）
討論者	小林 真理（東京大学）
論題	文化社会資本と人的資本の質 ― 芸術文化投資を組み込んだ政府支出最適配分モデル ―
発表者	八木 匡（同志社大学）
討論者	阪本 崇（京都橘大学）

会員企画セッション B　10:00～11:45

テーマ	伝統工芸産業の原材料問題を考える ―文化投資と産業の持続性―
企画趣旨・内容	伝統工芸は、その技が無形文化財つまり文化であり、その生産は産業でもある。技の継承と原材料の育成は、伝統工芸産業においては投資である。文化投資というと、人や創造への投資等をイメージしやすいが、無形文化の基盤となる物的基礎への投資も、また、広義の文化投資といえるのではないだろうか。本セッションは、「文化投資」の定義に関して、「無形のモノへの投資」という通説に対して、「無形と有形のモノへの投資」ととらえる視点を提起する。伝統工芸においては技が無形のモノであり、原材料や自然が有形のモノである。 文化財や伝統工芸を持続させるためには、原材料調達が欠かせないが、林業や伝統工芸そのものの衰退により、国内での原材料調達も困難に直面している。文化庁では、2006年より、文化財建造物の保存修理のために山野から供給される木材、檜皮（ひわだ）、茅、漆等の植物性資材の産地を「ふるさと文化財の森」として振興する事業を行っている。林野庁も2002年に、歴史的木造建造物や伝統工芸などの資材を供給する森林を育てる「木の文化を支える森」制度を創設した。 日本最古の木造建築物である法隆寺の修復を行った棟梁西岡常一は、1300年建ち続ける建物を建てるには、樹齢1300年の木を山ごと購入し、異なる生育環境で育った木の性質を見抜いて使わないと良い建築はできないという。文化財や伝統工芸にとって、原材料は、それほどの重みと意味を持ち、職人の技と一体となって優れた建造物が継承されていく。その原材料を育てるのは自然環境である。 本企画セッションでは、原材料調達、生産、流通、消費という伝統工芸のプロセスの中で、一番川上に当たる原材料調達に焦点を当てる。木工、漆、布、和紙を事例に、国内調達の現状や課題を明らかにし、その解決の方途について議論する。
登壇者	◆登壇者 後藤 和子（同志社大学）：問題提起 前川 洋平（北海道立総合研究機構）：「木工品生産を取り巻く森林資源と原材料調達・供給状況の変化」 中村 汐里（立教大学大学院生）：「浄法寺漆の生産基盤と循環の生態系―国内生産約8割を担う現場と制度のリアリティー」 保田 優太（経済産業省）：「染織における原材料の調達及び加工の供給制約」 高島 知佐子（静岡文化芸術大学）：「政府管理と自生による和紙の原材料生産とその変化」 ◆モデレーター 後藤 和子 高島 知佐子

分科会②　7月5日（日）14:20-16:50

2-A　文化行政と社会

座長　友岡 邦之（高崎経済大学）

論題	1970年大阪万博後の地方文化イベント実施にみる合理性
発表者	田中 淳士（京都大学大学院）
討論者	三浦 宏樹（大分経済同友会）

論題	AI技術の急速な発展による労働、市民生活への影響と文化政策の課題 一事務労働の大きな部分を占める企業、団体等の総務管理業務、会計業務等を主に
発表者	本田 洋一（大阪公立大学）
討論者	萩原 雅也（大阪樟蔭女子大学）

論題	文化のグローバル公共財概念の検討
発表者	朝倉 由希（福井県立大学）
討論者	中村 美帆（青山学院大学）

論題	公立図書館の位置づけの変遷に関する一考察
発表者	岩井 千華（國學院大学栃木短大）
討論者	中村 美帆（青山学院大学）

2-B　文化・芸術と地域

座長　竹谷 多賀子（龍谷大学）

論題	祇園祭・大船鉾復興の実態分析 ――多様なステークホルダーによる文化プロジェクトの事例研究――
発表者	飯塚 まり（同志社大学）
討論者	熊倉 純子（学習院大学）

論題	地方画商の成立と歩み一日本画家の書簡と聞き取りから一
発表者	鳥羽 都子（岐阜県美術館）
討論者	小泉 元宏（立教大学）

論題	アートボランティア実践が醸成するゆるやかなつながりが地域社会にもたらすもの とは？～日本各地で勃興するアートプロジェクトや国際芸術祭を事例に～
発表者	藤原 旅人（東京藝術大学）
討論者	小泉 元宏（立教大学）

2-C　歴史・思想とメディア

座長　太下 義之（東京藝術大学）

論題	メディアアート・デジタルアートは誰がどのように支えてきたのか？
発表者	岡田 智博（一橋大学）
討論者	太下 義之（東京藝術大学）

論題	戦後日本における無形遺産の実践と継承における可変性を考える —UNESCO無形文化遺産・無形文化財の「民族芸能」に注目して—
発表者	劉 致遠（筑波大学大学院）
共同発表者	池田 真利子（筑波大学）
討論者	後藤 和子（同志社大学）

論題	アダム・スミスの音楽論—道徳と社会の調和—
発表者	三澤 杏亮（東京大学大学院）
討論者	後藤 和子（同志社大学）

論題	文化・芸術の「物質圏」と「経済圏」における自己触媒的連関と分類：生存と創発を巡る四 領域比較を通じて
発表者	泉志谷 忠和（京都大学大学院）
討論者	野田 邦宏（横浜市立大学）